

事務事業名	職員綱紀委員会事務				担当	総務部 総務課 人事給与係			
政策名	G	効率的で市民にわかりやすいまちづくり				増補版施策名			
施策名	2	組織の適正化と人材の育成				☐ 実施計画上の主要事業			
関連個別計画					事業期間	☐ 単年度のみ			
法令根拠	地方公務員法、真岡市綱紀委員会規程真岡市職員倫理条例真岡市職員倫理規程					☒ 単年度繰返（開始年度 昭和57 年度～）			
予算科目	1. 一般会計	2. 総務費	1. 総務管理費	2. 人事管理費		☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）			
事業概要	市長の諮問に応じて、職員の表彰や職員倫理に違反した場合は地方公務員法等に準じて審議し、市長に答申している。 会長：副市長、副会長：総務部長、委員：市民生活部長、健康福祉部長、産業環境部長、建設部長、会計管理者、議会事務局長、教育次長をメンバーとして開催している。 市長は、報告に基づき、表彰や懲戒処分を行う。								

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 29年度実績 綱紀委員会を開催し、永年勤続職員表彰該当者について調査・審議し市長に報告した。 30年度計画 29年度に同じ。	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
	名称	単位	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(見込)
	ア 綱紀委員会の開催回数	回	1	1	1	3	1
	イ 懲戒処分を受けた職員数	人	0	0	0	1	0
	ウ						
	エ						
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 一般職員	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
	名称	単位	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(見込)
	ア 職員数	人	470	467	470	467	472
	イ						
	ウ						
	エ						
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 職員の士気高揚と綱紀粛正。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
	名称	単位	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(見込)
	ア 審査した職員の数	人	41	24	15	33	23
	イ 表彰対象とされた職員の数	人	41	24	15	32	23
	ウ 懲戒処分を受けた職員の数	人	0	0	0	1	0
	エ						
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 職員の綱紀粛正と士気高揚を図り、仕事へのやる気を喚起することにより、効率的な行政運営につなげる。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
	名称	単位	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(見込)
	ア 士気の高揚と綱紀粛正が促された職員の割合	%	100	100	100	100	100
	イ						
	ウ						
	エ						

(2) 総事業費の推移				単位	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
			県支出金	千円	0	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0	0
			その他	千円	0	0	0	0	0
			一般財源	千円	0	0	0	0	0
			事業費計（A）	千円	0	0	0	0	0
	人件費		正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2
			延べ業務時間	時間	10	10	10	30	10
			人件費計（B）	千円	42	42	42	125	42
			トータルコスト(A)+(B)	千円	42	42	42	125	42

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	職員の士気の高揚と綱紀の粛正を図るため。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは 5 年前と比べてどう変わったのか？	公務員としての自覚、公務員の倫理意識、職員の法令遵守等さらに市民の模範となることがより強く求められている。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	